

産業別四半期見通し調査結果 (2022年10～12月期見通し)

■長野県産業天気図

◇2022年7～9月期の現況

- 全12業種中、「晴れ(好調)」が2業種、「薄日(順調)」が1業種、「曇り(普通)」が5業種、「小雨(低調)」が4業種となった。

◇2022年10～12月期の見通し

- 見通しは、「晴れ(好調)」が2業種、「薄日(順調)」が2業種、「曇り(普通)」が4業種、「小雨(低調)」が4業種となった。方向感では、「上昇」が1業種、「横ばい」が6業種、「やや下降」が5業種となっている。

天気図記号	2022年 4～6月期現況	2022年 7～9月期現況	2022年 10～12月期見通し
 晴れ(好調)	2 業種	2 業種	2 業種
 薄日(順調)	1 業種	1 業種	2 業種
 曇り(普通)	5 業種	5 業種	4 業種
 小雨(低調)	4 業種	4 業種	4 業種
 雨(不調)	0 業種	0 業種	0 業種



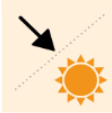










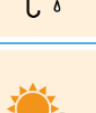
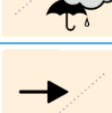


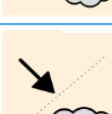


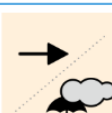





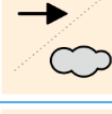









■10～12月期見通しのポイント



- 製造業では天気マークに変化はなく、非製造業では「観光」が「曇り(普通)」から「薄日(順調)」となる見通し。







<産業別天気図一覧(12業種)>



- 調査内容:業界の「現況」、「見通し」は、県内の企業経営者が業界の景気をどうみているかについてアンケート調査とヒアリング調査をした結果を基に、当研究所が判断した。
- 調査期間:2022年9月中旬～10月中旬
- 調査回答企業:県内主要企業12業種の118社



業種	前期 (22年4～6月期)	今期 (22年7～9月期)	来期 (22年10～12月期)
生産用機械			
電子部品・デバイス			
自動車部品			
飲料製造			
食料品製造			
機械器具卸			
大型小売			
自動車販売			
公共工事			
民間工事			
貨物			
観光			



生産用機械	受注は国内外とも高水準が続く
<p>● 現況</p> 	<p>生産用機械の受注は、国内向けは半導体を中心としたIT関連需要が順調で、自動車関連も底堅かった。海外向けはIT関連や電気自動車(EV)関連が好調だった。国内外ともにIT・自動車関連を中心に受注は高水準が続く見込み。ただ、半導体やコネクタなどの部品不足から機械の納期長期化が続くほか、原材料価格上昇が収益を圧迫する見通し。</p>
<p>● 見通し</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ● 工作機械の受注は、国内では、自動車関連が堅調に推移し、IT関連も順調が続く。東アジア、北米、欧州など海外は、IT関連やEV向けを中心に好調が続く見込み。 ● 半導体製造装置の受注は、高水準ながら半導体需要の減速が見込まれ、やや減少する見通し。



電子部品・デバイス	各種製造装置向けを中心に受注は好調
<p>● 現況</p> 	<p>電子部品の受注は、スマートフォン向けが今秋発売予定の高性能な新製品を中心に堅調だった。車載用は、完成車メーカーの減産の影響がみられたが、ハイブリッド車(HV)やEV向けを中心に底堅かった。産業用の電子制御部品は、半導体製造装置等の各種製造装置向けを中心に好調だった。今後も、全体の受注は好調な見通しだが、原材料価格上昇が収益を圧迫することが予想される。</p>
<p>● 見通し</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ● スマートフォン向けは、高性能な新製品を中心に、部品受注は堅調が見込まれる。 ● 車載用は、国内のHVや海外のEV向けを中心に需要は底堅い見通し。 ● 産業用の電子制御部品は、各種製造装置向けを中心に受注は好調な見込み。



自動車部品	半導体不足の影響が継続し受注は低調
<p>● 現況</p> 	<p>半導体不足による完成車メーカーの生産滞りが続き、受注は低調だった。新車需要は堅調ながら、今後も半導体不足による生産の滞りが続くと思われるため、受注水準は低い見通し。また、原材料価格上昇に対する販売価格への転嫁は一部にとどまるとみられ、収益環境は厳しい見込み。</p>
<p>● 見通し</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ● 国内向けは、スポーツ用多目的車(SUV)を中心に新車の需要は強いものの、半導体不足による完成車メーカーの生産滞りが続くため、受注は低調な見通し。 ● 北米や中国向けでは、半導体不足による生産の滞りにより受注は低調が続く見込み。東南アジア向けでは、行動制限の緩和で工場の稼働率上昇が見込まれ、受注は底堅い見通し。


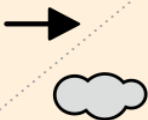
飲料製造	観光需要の増加から受注は底堅いが、コスト上昇が収益を圧迫する
<p>● 現況</p> 	<p>飲料の需要は、新型コロナの行動制限がなかったことからビジネスや観光客による移動が増加し、飲食店向けや土産品などが堅調だった。今後は、全国旅行支援による観光需要の増加が予想され、受注は底堅い見込み。ただ、原材料や資材価格の上昇が収益を圧迫する見通し。</p>
<p>● 見通し</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ● 果汁飲料やその他の清涼飲料水は、ビジネスや旅行など人の移動が増加が予想され受注は底堅い見込み。ただ、資材価格等コストの上昇により利益面は厳しさが増す見通し。 ● アルコール飲料は、新型コロナの行動制限がないことから外食での需要持ち直しが期待されるが、資材価格等の上昇から収益環境は厳しくなる見込み。


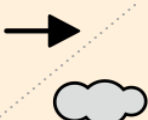
食料品製造	需要は底堅いが、コスト上昇が収益を圧迫する見通し
<p>● 現況</p> 	<p>家庭用は、味噌や加工肉などで調理が簡便な製品を中心に需要は底堅かった。宿泊施設や飲食店向けの業務用は低水準ながらやや持ち直した。収益面は、輸入原材料や電気料金等のコストが上昇し厳しさが増した。今後も、家庭用の需要は調理が簡便な製品を中心に底堅いが、業務用は外食需要でやや持ち直すものの力強さには欠ける見通し。輸入原材料などのコスト上昇に対する価格転嫁は一部にとどまり、収益を圧迫する見通し。</p>
<p>● 見通し</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ● 味噌は、家庭用の即席味噌汁を中心に需要は底堅く、加工肉は健康に配慮した製品などで堅調が見込まれるが、大豆や豚肉といった原材料価格のほか電気料金等の上昇が見込まれ、収益は厳しくなる見通し。


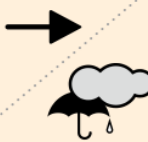
機械器具卸	省力化・自動化ニーズから機械需要は順調
<p>● 現況</p> 	<p>機械需要は、半導体関連が引き続き好調だったことに加え、自動車関連が堅調に推移し、総じて順調だった。ただ、工作機械やFA機器などの一部機種では生産が滞っており、商品不足が続いた。今後も省力化・自動化ニーズから機械需要は順調だが、商品不足は続く見通し。仕入価格の上昇については、販売価格への転嫁を進める見込み。</p>
<p>● 見通し</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ● 工作機械などの機械需要は、半導体製造装置向け、自動車向けなどを中心に設備投資が見込まれており順調な見通し。制御機器や産業用ロボットなどのFA機器の需要は、省力化・自動化ニーズから堅調な見込み。 ● 切削用工具類などの消耗品受注は、製造業の生産は堅調とみられ、底堅い見通し。



大型小売	食料品は底堅いものの、収益環境の厳しさは強まる見通し
<p>● 現況</p> 	<p>食料品の売り上げは、生鮮食品を中心に堅調だった。催事による集客効果もあり、衣料品も前年を上回った。今後も食料品の動きは底堅いものの、競合店間の価格競争に加え、物価上昇などで節約志向が一段と強まることが予想され、価格転嫁は限定的になる見通し。</p>
<p>● 見通し</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ● 百貨店は、お歳暮などのギフト関連が堅調な見込み。衣料品や身の回り品・化粧品などの雑貨も前年を上回るとみられるが、コロナ前の水準には至らない見通し。 ● スーパーは、生活必需品である食料品は堅調な推移が見込まれる。ただ、仕入価格の上昇については、競合店間の価格競争や強まる消費者の節約志向などを背景に、販売価格への転嫁は一部にとどまるとみられ、収益環境の厳しさは強まる見通し。

自動車販売	納車遅れが続き、新車販売は低水準にとどまる見込み
<p>● 現況</p> 	<p>半導体不足等の影響による納車遅れが若干緩和され、新車販売は前年を上回った。ただ、依然として納車遅れや一部車種の受注停止があり、新車販売は例年と比較すると低水準にとどまった。今後も、納車遅れは続くと思われ、販売台数は低水準にとどまる見通し。</p>
<p>● 見通し</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ● 新車販売は、人気のスポーツ用多目的車(SUV)や環境性能の高いハイブリッド車(HV)を中心に堅調な需要を見込むものの、半導体不足等による納車遅れの影響が続く見通し。 ● 中古車販売は、新車の納車遅れに伴い需要は高いものの、下取り車等の減少により流通量が少なく、例年を下回る見込み。 ● 輸入車販売は、SUVを中心に需要は堅調だが、納車遅れにより例年を下回る見通し。

公共工事	防災・減災工事を中心に例年並みの水準を見込む
<p>● 現況</p> 	<p>三遠南信自動車道やリニア中央新幹線の関連工事などにより、例年並みの工事量を確保した。今後、全体の工事量は災害復旧工事が多かった過去2年の水準は下回るものの、国土強靱化などの防災・減災工事を中心に、引き続き例年並みの水準を見込む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 国では、三遠南信自動車道や国土強靱化計画に伴う土木工事などにより、底堅い工事量となる見通し。
<p>● 見通し</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ● 県では、既存施設の改修工事や河川の砂防工事などにより堅調な発注量が続く、例年並みの工事量を維持するとみられる。 ● 市町村では、保育園の新設や道路整備などがみられ、安定した工事量が見込まれる。

民間工事	資材価格上昇の影響などから工事の先送りや見直しが懸念される
<p>● 現況</p> 	<p>民間企業の建設投資は、製造業の工場の新築・改築工事などを中心に、工事量は例年並みを維持した。新築住宅は、持家は伸び悩んだが、貸家や分譲の着工が増え、全体の着工戸数は例年並みだった。今後、企業の建設投資や住宅需要は底堅いとみられるが、資材価格上昇の影響などから工事の先送りや見直しが懸念される。</p>
<p>● 見通し</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ● 民間企業の建設投資は、工場の新設などの動きがあり工事量は例年並みが見込まれるが、資材価格上昇の影響による工事の先送りが懸念される。 ● 住宅関連は、マンションやローコスト住宅などに一定の需要があるものの、資材価格上昇などの要因から消費者マインドの低下が予想され、着工戸数は伸び悩む見通し。

貨物	工業製品の貨物量は引き続き低調、収益面も厳しい状況が続く
<p>● 現況</p> 	<p>工業製品は、自動車部品などの一部で荷動きが持ち直したが、全体の貨物量は低水準となった。一方、食品関連や雑貨類の貨物量は底堅く推移した。今後も、工業製品の貨物量は大幅な改善には至らず、荷動きは引き続き低調な見込み。また、業界全体では燃料価格等の上昇に対する価格転嫁の動きが鈍く、厳しい収益状況が続く見通し。</p>
<p>● 見通し</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ● 生産用機械の貨物量は、先行きへの不透明感から設備投資需要が弱まり、伸び悩む懸念がある。自動車部品は、一部で持ち直しの動きもあるが、依然として半導体や部材不足の影響があり、総じて弱い荷動きが続く見通し。 ● 食品関連や雑貨類の貨物量は、安定した需要により底堅さを維持する見込み。

観光	全国旅行支援により観光客数は大幅に増加する見通し
<p>● 現況</p> 	<p>新型コロナによる行動制限がなく、「県民割」の実施期間も延長されたため、観光客数は前年を上回った。今後は、秋の行楽シーズンを迎えることに加え、全国旅行支援の効果から観光客数は増加が見込まれる。さらに、外国人観光客の個人旅行解禁により、徐々にインバウンド客が増加していくとみられ、観光客数は前年を大幅に上回る見通し。</p>
<p>● 見通し</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ● 旅客は、全国旅行支援により、県内各地を周遊する宿泊を伴った観光客の増加が見込まれるほか、インバウンド客増加も見込まれるため、利用客数は前年を上回る見通し。 ● 宿泊施設は、全国旅行支援により、全都道府県民を対象として宿泊費の割引が適用されるため、国内観光客を中心に利用客数の大幅な増加を見込む。